

「連絡の窓」の勉強会に投稿するにあたり

此の石碑「木の香取神社江戸川改修碑」について、現地で見ると、「江戸川の」までは読めるのですが、その後が恥ずかしながら読めません。

今から二年くらい前、流山市立博物館友の会編「東葛流山研究第〇〇号」「たのしい東葛いしぶみ辞典」という本を見直していました。

そしたら、青木更吉氏の書いた説明文があったのです。（三九ページ）

ふと気がつくと、何か変？だなど思いました。

堤防改修申請が明治十年十二月で、許しが下りたのが翌十一年三月です。

しかも此の碑の建立が明治十一年と記載されているのです。早すぎ？

時代が違うとはいえず、坂川の改修の時は何回も却下されているし、明治十一年三月に工事着工をしても四十間（約一・二キロ）の堤防をそんなに早く完成出来るものだろうか？

そんな疑問から、此の碑の文字を読んでみようと考え、まずはいろんな角度から数枚の写真を撮りました。

光線の当たり具合で文字が浮かんできません。また、浮かんできた文字が読めません。

何回も現地へ赴き、何回も写真の撮り直しをしました。

パソコンに取り込んで、写真の切り取りをして、浮かんできた文字を繋ぎ合わせました。

それからは古文書辞典で一字一字調べました。（一年半〜二年懸けて）

それでも、誤読がたくさんありましたが、建立年が分かったと思ひ込み、古文書講座の先生に見てもらいました。

傑作は文末の方の「つたなさをさえ**王春**れてかく記るすになむ」を誤読で「つたなさをさえ**已生**れて可く志る須尔奈舞」と

と読み、有頂天でした。「已生れて」が正しければ、明治十四年が已年なんです。

正確な読み方が判った時の落胆は想像できますか？

そんなこんなで、何とかまとめました。

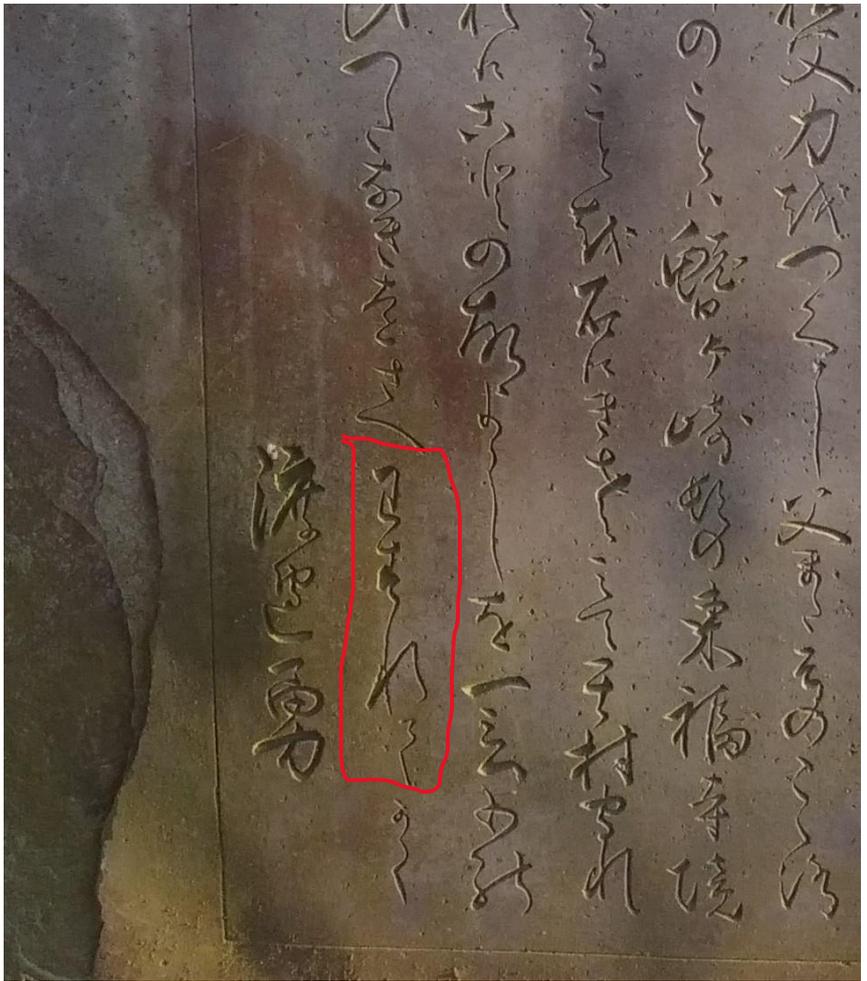
ガイドの会の有志で開かれている勉強会で披露させて頂いたのですが、

「堤防工事の費用は官・民どちらが負担したのか？」と質問を戴きました。

碑文から想像すしか無いので、碑文を読んだ人が各々の感じ方を支持していただければと考えます。

内容については、新田開発して、農地を増やす為の経緯とその功労者について、後世に伝える為。又、石碑を建立する根拠が書かれていると思う。（文字を読んで、文を想像すれば内容も読めるとおもい、ルビを付ける形式にまとめました。）

尚、青木更吉氏は「流山の江戸時代を旅する」の中で（一五八ページ）「**建立は明治十四年以降**であろう」としています。



右写真、□の中の文字について最初「**巳**生まれて」と読んだが、「**王**^わ**春**^すれて」が正解でした。

古文書では「**王**」はひらがなで「**わ**」、「**春**」は「**す**」と読むそうです。

ちなみに「**春原**」と言う名字の人を知っていますが「**すのはら**」と読むそうです。私が「Word」で「**すのはら**」を交換したら「**春原**」という文字が出てきました。